

3-3 低平な沖積地に点在する 古墳時代後期の集落

尾方禎莉

はじめに

1 周辺の遺跡

1-1 古墳

1-2 横穴墓群

2 類似した遺跡

2-1 白川流域

2-2 緑川流域

2-3 大野川流域

3 分析

はじめに

新南部遺跡群は、白川中流域と下流域の境界、白川左岸の沖積地に位置する遺跡群である。

古墳時代後期（5世紀後半～6世紀後半）の竪穴住居が16棟検出され記録された。うち15棟には竈が造り付けられ、5棟から移動式竈が検出された。造り付け竈と移動式竈とが共伴した竪穴住居は4棟である。なお、竪穴住居からは、須恵器及び土師器、砥石、紡錘車等の石器、摘鎌、鉄鎌、刀子等の金属器が出土した。なかでも、須恵器模倣坏が16棟のうち7棟から合計16点出土しており、6世紀の遺構と遺物、集落の特徴をよくそなえた遺跡である。

以下では、新南部遺跡群と、周辺に位置する遺跡、類似した遺跡とを比較し、新南部遺跡群に固有の特徴を抽出することとしたい。比較対象は、周辺の遺跡では新南部遺跡群の対岸に位置する古墳、横穴墓群、そして類似した遺跡では熊本平野の沖積地に分布する遺跡とした。

1 周辺の遺跡

新南部遺跡群の対岸には古墳5基、横穴墓群8群170余基が位置している。以下にその概要を記す。なお、「遺跡名（所在地）遺跡番号」を付した。この遺跡番号は、図2「新南部遺跡群と周辺遺跡」に用いた遺跡番号と同一である。

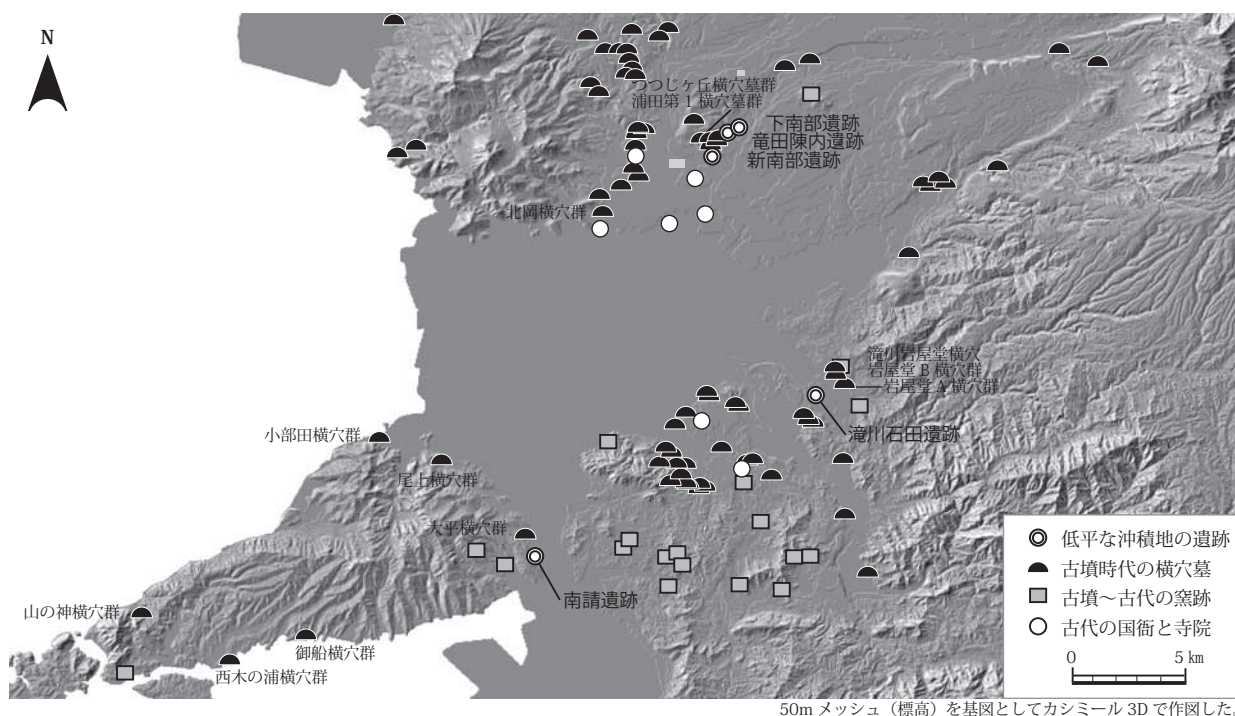


Fig.3-3-1 周辺の遺跡 分布図

1-1 古墳

宇留毛神社古墳（熊本市中央区黒髪）316

宇留毛神社境内に位置し、もとは円墳3基あったとされるが、現在は円墳2基が確認されている。いずれも横穴式石室であったと考えられる。出土遺物は確認されておらず、築造時期は不明である。

長薫寺古墳（熊本市中央区黒髪）313

長薫寺境内の西側に位置する円墳1基である。過去に破壊されているが、横穴式石室の一部が残存している。鉄鏃、須恵器が出土している。築造時期は7世紀前半と考えられる。

立田山南麓古墳（熊本市中央区黒髪）

宇留毛神社境内より北側の斜面に位置した円墳2基である。2古墳とも横穴式石室であり、上方の古墳からは、盗掘を受けながらも、須恵器、鉄鏃、刀片や鐙、耳環等、多くの遺物が出土している。上方の古墳の築造時期は7世紀初頭と考えられる。下方の古墳は、須恵器片、鉄鏃が出土しているが、築造時期は不明である。

1-2 横穴墓群

宇留毛小碓橋際横穴墓群（熊本市中央区黒髪）314

白川の右岸、立田山の南斜面下方に位置し、隣接するつつじヶ丘横穴墓群と連続していたと考えられる。総数は40余基、うち調査数は6基である。出土遺物は、須恵器、土師器、鉄器、馬具、耳環、玉類等である。築造時期は6世紀末～7世紀前半と考えられる。

つつじヶ丘横穴墓群（熊本市中央区黒髪）315

白川の右岸、立田山の南斜面下方に位置している。もとは宇留毛小碓橋際横穴墓群と連続していたと考えられる。総数は48基、うち調査数は19基である。出土遺物は、須恵器、土師器、鉄器、馬具、耳環、玉類等である。築造時期は6世紀後半～7世紀中頃と考えられる。

浦山第1横穴墓群（熊本市中央区黒髪）311

白川の右岸、立田山南麓丘陵の南斜面に位置している。総数は18基で、すべてが調査されている。出土遺物は、須恵器、土師器であるが、少量である。築造時期は7世紀後半と考えられる。

浦山第2横穴墓群（熊本市中央区黒髪）310

浦山第1横穴墓群に連続する南西向き斜面に位置している。総数は9余基、うち調査数は6基である。出土遺物は、須恵器、土師器であるが、少量である。築造時期は6世紀末～7世紀前半と考えられる。

女瀬平横穴墓群（熊本市北区龍田町）312

長薫寺横穴墓群の東側に位置している。多数の横穴があったとされるが、うち1基が調査された。遺物は確認されず、築造時期は不明である。

長薫寺横穴墓群（熊本市中央区黒髪）

長薫寺境内の北側、南東向き斜面に位置している。多くが破壊されており、20基あったとされるが、うち2基が調査された。須恵器の坏、横瓶が出土している。築造時期は不明である。

弓削小坂横穴墓群（熊本市北区龍田町）

白川の右岸、新南部遺跡群から約5km上流の詫麻台地の南側斜面に位置している。総数は50基、新編市史編纂に際し現状調査がなされた。出土遺物は、須恵器、土師器があり、うち、須恵器1点は台付鳥形瓶であり、土師器2点は「歳成」墨書土器であった。築造時期は6世紀後半～8世紀前半と考えられる。

今石横穴墓群（菊池郡菊陽町）

白川の右岸、弓削小坂横穴墓群より約1km上流に位置している。明治時代、県道開通の際に9基が発見されたが、現在は2基が残存している。築造時期は古墳時代後期と考えられる。

以上の古墳、横穴墓群は、すべて新南部遺跡群の対岸である白川右岸に位置している。うち、新南部遺跡より5kmほど上流である白川中流域半ばに位置する弓削小坂横穴墓群と今石横穴墓群の供用期間は6世紀

後半～8世紀前半であり、その供用期間の前半部分が新南部遺跡群の存続期間と重なっている。なお、新南部遺跡群に近い立田山山麓に凝集した古墳と横穴墓群の供用期間は6世紀後半～7世紀前半であり、新南部遺跡群の存続期間と一致している。

2 類似した遺跡

新南部遺跡群は、低平な沖積地に位置しており、洪水の影響を直接受ける立地をとっている。このように低平な沖積地に集落を形成する例は、熊本平野とその縁辺部では白川流域の竜田陳内遺跡、下南部遺跡、緑川水系御船川流域の滝川石田遺跡、大野川流域の南請遺跡の小計4遺跡であり、新南部遺跡群とあわせて合計5遺跡を確認することができる。

なお、緑川、白川は一級水系であり、菊池川、矢部川、筑後川、嘉瀬川、六角川の各一級水系とその流域が接続して有明海東半を圍繞するように形成した沖積平野の連続地帯の南端を構成している。

以下に遺跡の概要を記し、各遺跡の竪穴住居の内容をTab.3-3-1に集成した。

2-1 白川流域

竜田陳内遺跡（熊本市北区龍田町）305

立田山東麓端から白川中流域右岸の沖積地にかけて位置する遺跡である。古墳時代の竈を備える竪穴住居2棟が検出されている。

第1号住居からは、須恵器、土師器が出土し、うち須恵器模倣坏が3点確認された。

第2号住居の竈は、その前面に被熱痕をもつ砂岩の切り石4点が横一列に埋置され、火床には土師器甕破片が散在していた。竈右袖の右側には完形の土師器甕が埋設されていた。その他の出土遺物は少なく、須恵器は出土していない。

下南部遺跡（熊本市東区下南部町）323

白川が大きく蛇行してつくられた中流域左岸突出部の沖積地に位置する遺跡である。弥生時代の竪穴住居8棟、古墳時代の竪穴住居4棟が検出された。うち、竈をそなえる竪穴住居1棟（9号）、埋土に焼土、粘土が含まれた竪穴住居は3棟（2、5、13号）である。

9号の竈の火床からは、土師器高坏が倒置状態で検出された。

なお、5号の焼土からは、須恵器有蓋高坏が正置状態で検出された。

出土遺物は、土師器、須恵器であり、篋記号をもつ須恵器坏1点、土鈴1点の他、石器、金属器等が出土している。

出土遺物から、5号は6世紀中葉、2号、9号は6世紀後半、13号は6世紀末に位置づけられている。

2-2 緑川流域

滝川石田遺跡（上益城郡御船町）

緑川水系御船川の下流域右岸の低平な沖積地に位置する遺跡である。古墳時代の竪穴住居49棟、中世～近世の「掘立柱住居」6棟が検出された。竪穴住居33棟には竈が造り付けられ、うち造り付け竈と移動式竈が相伴した竪穴住居5棟、長い煙道を備えた竪穴住居5棟が確認できる。なお、焼土のみが認められた竪穴住居6棟が検出された。

出土遺物は、須恵器、土師器であり、うち須恵器模倣坏63点が竪穴住居22棟から出土した。この他、篋記号をもつ土師器坏4点、須恵器坏8点、合計12点、韃羽口、手捏ね土器、石器、金属器が出土している。

古墳時代の竪穴住居は、5世紀末1棟、6世紀初頭～前半9棟、6世紀中頃～後半9棟、6世紀後半～7世紀初頭17棟の4段階にわたり変遷すると報告された。

2-3 大野川流域

南請遺跡（宇城市不知火町）

宇土半島基部の狭隘で低平な沖積地に位置する遺跡である。古墳時代の竪穴住居18棟、古代の掘立柱住居1棟が検出された。造り付け竈は検出されず、竪穴住居1棟から移動式竈1点が検出された。

出土遺物は、須恵器、土師器、石器等であり、うち須恵器模倣坏2点、篋記号をもつ須恵器1点が含まれる。

出土遺物から、古墳時代後期の集落と位置づけられている。

Tab.3-3-1 低平な沖積地に展開する遺跡 一覧表

番号	遺跡名	遺構名	竈の概略	竈種類	焚口構造	火床状態	出土遺物	須恵器模倣坏	へら記号	製塩土器	遺物年代
1	新南部遺跡群	S028		2			須恵器24点、土師器57点、石器3点、金属器7点	2	5		MT15～MT85
2	新南部遺跡群	S038	焚口に土器片、周辺に礫が凝集。	3	柱状礫破却		須恵器23点、土師器87点、石器4点、金属器3点	7			MT15～MT85
3	新南部遺跡群	S040	焚口に砂岩を横一列に並べた痕跡。両袖端から円礫各1点が出土。火床から高坏が横位状態で出土。竈の右側に甕を設置。	1	柱状礫破却	高坏伏置	須恵器7点、土師器10点、石器1点				MT85
4	新南部遺跡群	S042	火床から石製支脚が出土。周辺には砂岩が散在。	1	柱状礫破却		須恵器6点、土師器14点、石器2点	1			MT15～MT85
5	新南部遺跡群	S043	焚口に砂岩を並べた痕跡。火床に土器片が散在。	1	柱状礫破却		須恵器7点、土師器16点、石器1点	1			MT15～MT85
6	新南部遺跡群	S046	焚口を塞ぐように砂岩が散在。両袖端から円礫各1点が出土。火床に土器片が散在。	1	柱状礫破却		須恵器1点、土師器4点	1			MT15
7	新南部遺跡群	S047	火床に角礫、土器片が散在。	1	柱状礫破却		須恵器1点、土師器1点、				
8	新南部遺跡群	S048	礫、土器片が散在。	3	柱状礫破却		須恵器6点、土師器16点、金属器1点	1			MT85
9	新南部遺跡群	S049	火床から砂岩、欠損甕が出土。	3	柱状礫破却	甕設置	須恵器1点、土師器7点				TK10
10	新南部遺跡群	S050	焚口に砂岩4点を横一列に設置。火床・周辺には土器片が散在。煙道と思われる穴を確認	1	柱状礫埋設		須恵器2点、土師器20点、石器3点、金属器1点	3		3	TK10～MT85
11	新南部遺跡群	S051	火床から甕、鉄器が出土。	3	柱状礫破却	甕設置	須恵器7点、土師器16点、石器2点		3		TK47～MT85
12	新南部遺跡群	S054		1	柱状礫破却		土師器2点、石器1点				
13	新南部遺跡群	S056		1			須恵器1点、土師器4点、石器1点			1	MT85
14	新南部遺跡群	S057	火床から石製支脚が出土。周辺に砂岩が散在。	1	柱状礫破却		土師器2点、石器2点			1	
15	新南部遺跡群	S058	焚口に角礫数点を横一列に設置。火床に半分が欠損した甕と土器片を検出。	1	柱状礫埋設	甕設置	須恵器3点、土師器8点、金属器1点				MT15～MT85
16	新南部遺跡群	S059		1			須恵器4点、土師器6点	1			TK47～MT85
17	新南部遺跡群	S062		1			須恵器4点、土師器9点				MT85
18	新南部遺跡群	S063		1			土師器1点				
19	新南部遺跡群	S064		1			須恵器1点、土師器4点、石器1点				MT85
20	竜田陣内遺跡	1号	火床から石製支脚が出土。	1			須恵器2点、土師器6点	3			MT15
21	竜田陣内遺跡	2号	焚口に砂岩切石4点を横一列に設置。竈右側に甕を埋設。	1	柱状礫埋設	甕設置	土師器2点				
22	下南部遺跡	2号		4			土師器2点、金属器1点				
23	下南部遺跡	5号	粘土粒、炭化物堆積範囲に有蓋高坏を正位設置。	4			須恵器6点、土師器1点、土鈴				TK47～MT85
24	下南部遺跡	9号	袖部に砂岩2点を埋設。火床に高坏を伏せ置く。	1		高坏伏置	土師器4点、須恵器1点、石器1点				
25	下南部遺跡	13号		4			須恵器7点、土師器2点、		1		MT85
26	滝川石田遺跡	1号	両袖端から礫各1点を検出。	4			須恵器1点、土師器15点、石器2点	1			TK47
27	滝川石田遺跡	2号		4			須恵器7点、土師器16点、金属器2点	3	1		MT15～TK15
28	滝川石田遺跡	3号	床面に突き刺さった砂岩を検出。	1	柱状礫破却		土師器2点、石器2点				
29	滝川石田遺跡	4号		2			須恵器6点、土師器21点	7			MT15～TK15
30	滝川石田遺跡	5号	袖石痕跡(土壌)を検出。	1			土師器10点				
31	滝川石田遺跡	6号		4			須恵器2点、土師器3点、金属器1点		1		MT85
32	滝川石田遺跡	1区7号	石製支脚となる礫が出土	3			須恵器2点、土師器27点、手捏ね土器1点、石器1点		1		TK47～MT15
33	滝川石田遺跡	1区9号		4			須恵器3点、土師器1点				TK47～TK10

番号	遺跡名	遺構名	竈の概略	竈種類	焚口構造	火床状態	出土遺物	須恵器模倣坏	ヘラ記号	製塩土器	遺物年代
34	滝川石田遺跡	1区11号		1	柱状礫破却		須恵器1点、土師器5点		1		MT15
35	滝川石田遺跡	1区12号	焚口に細長い川原石がコの字形に倒れていた。火床から壺破片が出土。	1	柱状礫埋設	壺設置	須恵器1点、土師器4点				
36	滝川石田遺跡	1区13号		4			須恵器5点、土師器19点、金属器2点	2			TK43～TK209
37	滝川石田遺跡	1区14号	火床から壺破片が出土。	3		壺設置	須恵器19点、土師器16点、金属器2点	5	2		MT85～TK43
38	滝川石田遺跡	1区15号	周辺に砂岩が散在。	1	柱状礫破却		須恵器3点、土師器2点、石器1点				TK43
39	滝川石田遺跡	1区16号		4			須恵器1点				TK10
40	滝川石田遺跡	1区17号		4			土師器7点	4			TK10を模倣
41	滝川石田遺跡	1区18号		2			須恵器6点、土師器13点、金属器1点		1		TK10～TK43
42	滝川石田遺跡	3区1号		1			土師器1点				
43	滝川石田遺跡	3区2号	火床から石製支脚が出土。	1			須恵器20点、土師器23点、手捏ね土器1点	7	2		TK10
44	滝川石田遺跡	3区3号	火床に高坏を伏せ置く。凝灰岩が出土。	1		高坏伏置	須恵器2点、土師器7点、金属器1点	2			MT85～TK43
45	滝川石田遺跡	3区4号		1			土師器3点				
46	滝川石田遺跡	3区5号		1			須恵器2点、土師器4点	2	1		TK10
47	滝川石田遺跡	3区6号	火床から石製支脚が出土。	3			須恵器1点、土師器6点、金属器1点	2	1		MT85
48	滝川石田遺跡	3区7号	火床に高坏を伏せ置く。	1		高坏伏置	須恵器2点、土師器11点				TK47
49	滝川石田遺跡	3区8号	両袖部から礫各1点が出土。	1			須恵器2点、土師器5点、手捏ね土器1点、金属器1点				MT85
50	滝川石田遺跡	3区9号		1			土師器1点、手捏ね土器7点				
51	滝川石田遺跡	3区10号	火床付近から礫2点が出土。	1	柱状礫破却		須恵器10点、土師器18点、手捏ね土器11点				MT15～TK10
52	滝川石田遺跡	3区11号	火床に高坏を伏せ置く。	1		高坏伏置	須恵器1点、土師器6点	1			TK43宇城産
53	滝川石田遺跡	3区12号		1			土師器8点	1			
54	滝川石田遺跡	3区13号		1			須恵器1点				MT85
55	滝川石田遺跡	3区14号	焚口付近に横長の川原石を設置し、その左右に柱状角礫を立てる。	1	柱状礫埋設		須恵器1点、土師器10点				TK10～MT85
56	滝川石田遺跡	3区15号	火床に高坏を伏せ置く。煙道を付設。	1		高坏伏置	須恵器1点、土師器6点				TK43～TK209
57	滝川石田遺跡	3区16号	火床から石製支脚が出土。	1			土師器5点	1			
58	滝川石田遺跡	3区17号	火床で土製支脚2点を検出。	3			須恵器9点、	2	1		MT85
59	滝川石田遺跡	3区18号		1			土師器1点				
60	滝川石田遺跡	3区19号	土製支脚、石製支脚が出土。	4			土師器4点	1			
61	滝川石田遺跡	3区20号	焚口に角柱状の凝灰岩を横位設置。火床から円礫支脚を検出。煙道を付設。	1	柱状礫破却		須恵器4点、土師器15点、金属器1点	3			TK10～TK43
62	滝川石田遺跡	3区22号	火床から土製支脚1点を検出。	1			須恵器7点、土師器11点、石器1点、金属器1点	5			MT85～TK43
63	滝川石田遺跡	3区23号	煙道を付設。	1			土師器4点				
64	滝川石田遺跡	3区24号	火床から円礫支脚が出土。煙道を付設。	1	柱状礫破却		須恵器1点、土師器11点、石器1点、金属器1点	2			TK43～TK209
65	滝川石田遺跡	3区25号	煙道を付設。	1	柱状礫破却		須恵器5点、土師器9点	2			TK43～TK209
66	滝川石田遺跡	3区26号	煙道を付設。	3			須恵器17点、土師器25点	8	1		TK43～TK209
67	滝川石田遺跡	3区27号		1			須恵器6点、土師器1点	1			TK43
68	滝川石田遺跡	3区29号	煙道を付設	1			須恵器5点、土師器7点、金属器1点	1			TK43
69	南請遺跡	SI003		4				1		2	
70	南請遺跡	SI004		2							TK10～MT85
71	南請遺跡	SI009		4				1			

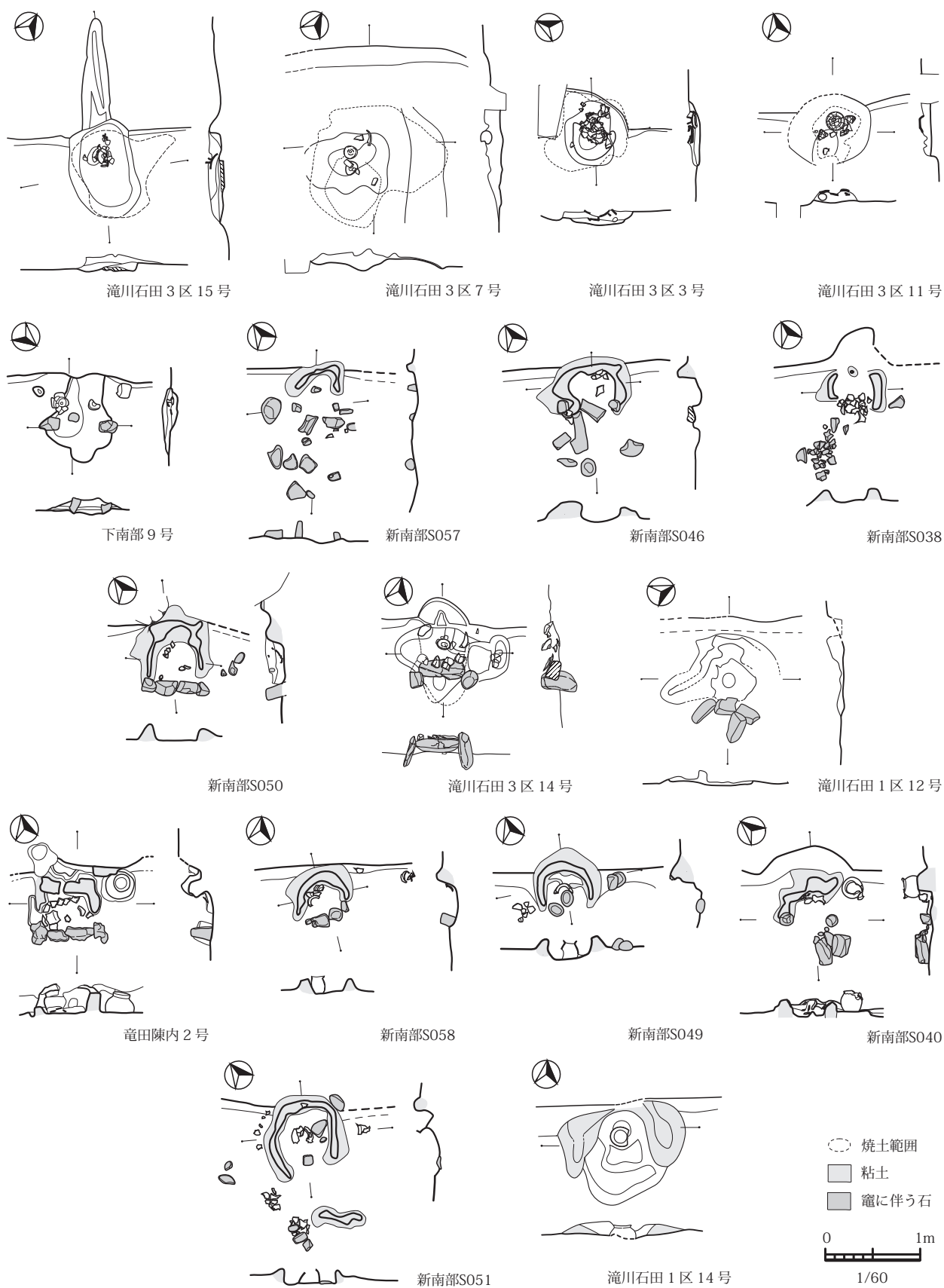


Fig.3-3-2 低平な沖積地に構築された竈 集成図

3 分析

新南部遺跡群と上記の類似した4遺跡とを比較し、共通する特徴を抽出する。

各遺跡で検出された住居数は、新南部遺跡群は古墳時代の竪穴住居16棟、竜田陳内遺跡は古墳時代の竪穴住居2棟、下南部遺跡は弥生時代の竪穴住居8棟、古墳時代の竪穴住居4棟、合計12棟である。滝川石田遺跡は古墳時代の竪穴住居49棟、中世～近世の掘立柱住居6棟、合計55棟であり、南請遺跡は古墳時代の竪穴住居18棟、古代の掘立柱住居1棟、合計19棟であった。

造り付け竈が設けられた竪穴住居（竈の壁体破片や粘土、焼土の堆積のみを検出した住居は除く。）は、新南部遺跡群では16棟のうち14棟、竜田陳内遺跡では2棟のうち2棟、下南部遺跡では4棟のうち1棟、滝川石田遺跡では49棟のうち33棟、合計50棟である。これら竪穴住居は、すべてTK47～TK209型

式（5世紀第4四半期～7世紀第1四半期）の範疇に収まる。

なお、造り付け竈を備えた竪穴住居には、竈の燃焼部と焚出部の間に角柱状の砂岩等が一行に埋置されたり、固め置かれたり、あるいはこれが破却され散在していた竪穴住居が存在する。このような例は、新南部遺跡群では14棟のうち13棟、竜田陳内遺跡では2棟のうち1棟、滝川石田遺跡では33棟のうち9棟、合計23棟を確認できる。これらの存続時期はTK47～TK209型式にあたり、うち14棟はMT15～MT85型式（6世紀第1四半期～6世紀第3四半期）に集中している。

また、造り付け竈の火床に完形高坏を伏せ置く竪穴住居は、新南部遺跡群で1棟、下南部遺跡で1棟、滝川石田遺跡で4棟、合計6棟存在する。

おって、造り付け竈の燃焼部からほぼ完形の土師器甕が検出された竪穴住居が存在した。新南部遺跡群では14棟のうち3棟、滝川石田遺跡では33棟のうち

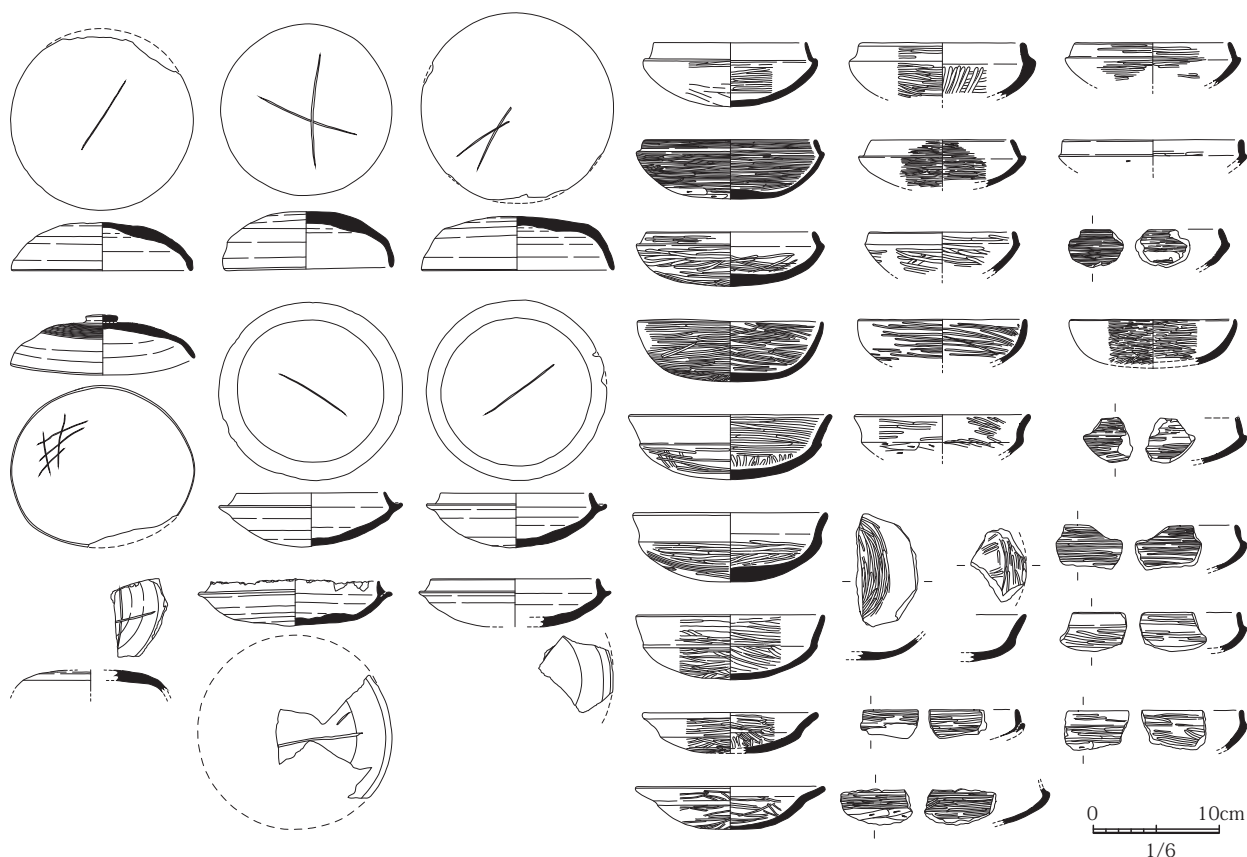


Fig.3-3-3 甕書坏及び須恵器模倣坏 集成図

2 棟、合計 5 棟を確認でき、うち 4 棟では、先述した砂岩等を伴う竈を備えていた。

このような竪穴住居の時期は TK47（5 世紀第 4 四半期）型式と MT85 ～ TK43 型式（6 世紀第 3 四半期～6 世紀第 4 四半期）に二分することができ、その間に 50 年程の空白期間が存在する。竈内に伏せ置かれた高坏はすべて土師器であり、竜田陳内遺跡の 1 棟のように正置状態で検出された高坏は須恵器であることと併せ、土師器を選択的に用いていたと考えることができる。さらに、新南部遺跡群で 1 例検出された、火床に割れ倒れていた土師器の高坏もこの例に加えてよいであろう。いずれの土師器高坏も坏部外面下半をケズリ、脚部には面取り整形が施され、屈曲裾部をもつ点が共通する。

移動式竈が、新南部遺跡群では 16 棟のうち 5 棟、滝川石田遺跡では 49 棟のうち 6 棟、南請遺跡では 28 棟のうち 1 棟、合計 12 棟から検出されている。新南部遺跡群では 5 棟のうち 4 棟、滝川石田遺跡では 6 棟のうち 5 棟、合計 9 棟で造り付け竈と重複しているため、2 種の竈は並行して使用されていたと考えられる。

なお、須恵器模倣坏も多数検出されている。新南部遺跡群では 16 棟のうち 7 棟から 16 点、竜田陳内遺跡では 2 棟のうち 1 棟から 3 点、滝川石田遺跡では 49 棟のうち 22 棟から 63 点、合計 82 点が検出されている。その年代は、TK47 ～ TK209 型式と幅広いが、新南部遺跡群では、13 棟が MT15 ～ MT85 型式に集中している。

また、篋記号をもつ坏も出土しており、新南部遺跡群では 16 棟のうち 2 棟から 8 点、下南部遺跡では 4

棟のうち 1 棟から 1 点、滝川石田遺跡では 49 棟のうち 10 棟から 12 点、南請遺跡では 18 棟のうち 1 棟から 1 点、合計 22 点が検出された。これらの篋記号をもつ坏は、滝川石田遺跡の 4 点を除き、すべて須恵器である。その時期は MT15 ～ MT85 型式に集中している。

新南部遺跡群と竜田陳内遺跡、下南部遺跡、滝川石田遺跡、南請遺跡の 4 遺跡とのあいだには、以上の共通点を認めることができる。特定の時期（6 世紀）に集落が同様の立地（低平な沖積地）に形成された現象を認めることができるのであるが、このような遺跡は現在、上記 5 遺跡しか確認されていない。

（引用文献）

大城康雄、廣瀬正照、1979、『下南部遺跡発掘調査報告書』、熊本市住宅協会、熊本。

浦田信智、丸山伸治、1988、「第 4 節 古墳時代」、『竜田陳内遺跡』熊本県文化財調査報告 98、熊本県教育委員会、熊本。

美濃口雅朗、2002、「第 2 節位置と環境」、『つつじヶ丘横穴群』熊本市教育委員会、熊本。

岡本真也、2014、『滝川石田遺跡・辺田見中道遺跡』、熊本県文化財調査報告 301、熊本県教育委員会、熊本。

新熊本市史編纂委員会、1996、『新熊本市史』資料編 1 考古資料、熊本市、熊本。